



島田 恒 議員

基幹産業である農業の振興について

問 資材価格の高騰を受け、農業経営の継続が難しいとの声がある。市の経営支援の現状と、中小規模農家への対応はどうか。

答 市独自の支援としては、国の対象とならない親元就農への支援金の給付や、転入による雇用就農への家賃補助などを行っている。

問 農地の分散・遊休化・耕作放棄地が課題となる中、農地集約と農地中間管理事業について市の役割を伺う。

答 昨年度に市内15地区で地域的集約などの話し合いを継続し、定期的な見直しに取り組んでいく。農地中間管理事業の市の役割は、農地を貸したい人と借りたい人の間に入り、受付事務を行っている。農業由来のバイオマス資源の循環利用の現状は。

答 現状では、個々の農家による肥料利用や耕畜連携による活用は見られるものの、資源の収集や供給体制、利用先の確保などが十分に整っておらず、地域全体での循環利用には至っていない。

資産マネジメント戦略について

問 学校跡地を保有し続けることによる維持管理費増加が懸念される中、学校統合に伴う跡地利用の基本方針と検討体制、具体的な活用手法について伺う。

答 旭市学校施設利用基本方針の下で検討を進めていく。具体的には、地域住民のニーズを踏まえた利活用、行政需要への対応、民間事業者等による利活用の3つの観点を重視し進めて行く。

問 民間提案型制度の導入状況と、旧海上中学校跡地の活用検討について伺う。

答 公共施設等管理計画において、公民連携を推進し、積極的に検討することとしている。また、サウンディング型市場調査を実施する等、民間提案型の手法を既に検討・導入している例もある。旧海上中学校跡地についても、サウンディング型市場調査を実施し、民間事業者からの提案を近日中に募集する。

防災力の強化について

問 県ではフェーズフリー条例の策定に向けての動きがあるようだが、本市におけるフェーズフリーの取り組みについて、市長の考えを伺う。

※フェーズフリー……解説は16ページ。

答 本市においては、既に実施している防災給食のローリングストックや公園へのマンホールトイレの設置などの取り組みがフェーズフリーの考え方に合致する。災害発生時だけでなく、普段の暮らしも豊かにするというフェーズフリーの考え方を踏まえ、今後も千葉県と連携しながら、安全・安心なまちづくりに努めていきたい。

交通安全の強化について

問 千潟小学区にある信号のない交差点(千潟小学校東側、道焼き肉一力の西側)について、道

幅が同程度であるため、近隣住民と通行者の間で優先道路に関する認識に違いがある。安全のため、一時停止の設置など、何か対策は取れないのか。

答 当該交差点は以前にも危険設置が検討された。しかし当時は設置には至らなかった。一時停止の設置を改めて警察へ要望し、ドット線の設置等の対策を進める。

農業の振興について

問 山間の農地、農道が狭い、水利が乏しい等の条件不利地は何もしなければ、耕作放棄地になってしまう。耕作放棄地再生事業補助金によって農地を再生するのであれば、耕作放棄を減らすための耕作奨励金があっても良いのではないか。

答 耕作放棄を防止するための奨励金制度を創設するには、対象農地の範囲、交付要件の公平性、営農実態の確認方法など、制度設計上の課題が多岐にわたる。耕作放棄の未然防止は極めて重要であるので、既存の多面的機能支払交付金の活用、地域計画に基づく農地集約を推進することにより、実質的な予防効果を高めていくことが現実的である。



常世田 正樹 議員